

# 平成27年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立烏丸中学校 )

## 1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(言語活動・家庭学習・キャリア教育・LD等の支援) 2. 豊かな心の育成(けじめのある生活・他人を思いやる心・自分への自信)  
3. 健やかな体の育成(保健教育・食教育・安全教育・防災教育) 4. 少人数教育・伝統文化教育(地域の主体者の育成・教科における横断的カリキュラム)

## 2 1回目評価

<div> <div>・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定</div> <div>・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施</div> <div>・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</div> </div> <div>・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理</div>						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年10月8日	評価日	
						評価者・組織	職員会議	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
						分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確かな学力	言語活動・小集団活動を積極的に取り入れた授業実践 家庭学習の習慣化 キャリア教育 LD等の支援	学び合い活動・朝読書・オープンスクールにおける授業公開・グループ研 学年・教科による系統的な課題の提示・確プロの予習、復習シートの活用 テスト前学習会・夏季学力補充・10月三者面談・特別支援体制の確立	全国学力診断テスト・学習確認プログラム・学習アンケート 朝学活時に提出状況チェック・生活アンケート 進路希望調査・教育相談	学テの結果は全国平均よりいずれの教科共に8～13ポイント高い。確プロの結果は1, 3年は全市より8ポイント、2年は2ポイント高い 各クラス数名の未提出者がある 公立全日制普通科45%、専門学科13%、私学30%、その他12%	⇒	ほとんどの教科で小集団活動・学び合い活動が展開され、学力テストの結果もかなり満足できる結果が出ているが、全国平均に比べ家庭学習の時間が少ない 各クラスに在籍する支援を要する生徒への組織的対応が不十分。 年度当初に再度グループ活動や学び合い活動の意義を確認し、全教科で実施する体制をつくる。宿題を活用した家庭学習の定着を図る。 特別支援委員会でLD等の支援の体制を確立する。 望む進路が保障できるよう、Ⅱ期は10月と12月に二回三者面談を行う。	⇒	烏丸中学校の学習指導が一定の成果が現れていると言える。改めて、家庭での学習の課題が明らかになったのはいいことであるので、広くお知らせしていくことが大切。 進路に関する取り組みも継続させ、今後、様々な情報を丁寧に保護者に知らせてほしい オープンスクールなど授業の様子を直接見られる機会を活用する。 ホームページや懇談会で、家庭学習の必要性を知らせていく。 進路指導に関する面談を今年度も予定通りⅡ期は2回実施する。
2	豊かな心	けじめある生活と挨拶の習慣化 人を思いやる心 自分への自信	生徒会主催の生活点検・朝の挨拶運動 生徒会による全校集会の企画と運営・地域活動の活性化 集会における生徒の発表の場を多く設ける・「心からすまいるおもてなし集会」	保護者評価アンケート 保護者評価アンケート 保護者評価アンケート・生徒アンケート	挨拶ができると回答した人が86%で昨年より3ポイント増加 学校の雰囲気が良いと回答した人が93%で昨年度より11ポイント増加 自信が持てるに回答した人が59%で昨年より7ポイント増加	⇒	生徒会・PTAが中心となった挨拶運動の成果が出てきている。 雰囲気も良くなってきていると考えて良い 自尊感情の育成は増加しているものの、まだまだ数字的には伸ばせる。 引き続き生徒会を中心とした挨拶運動や、集会の企画・運営を推進する。 本年度研究指定は外れたが、人権啓発や「おもてなし集会」を企画し、地域にも広く出かけていって、発信活動を行うことで、自己有用感を高めていきたい。	⇒	「心からすまいるおもてなし集会」を今年度も大いに活用し、地域・保護者ボランティアの協力を進めていく。
3	健やかな体	保健教育の充実・食教育の充実 安全・防災教育	保健だより・食だよりの発行 安全教室・防煙教室・薬物乱用防止教室などの開催	生活アンケート 各種教室後の生徒感想アンケート	起床時間は7時～7時半、朝食は約8割が摂取、就寝時間は11時～12時 薬物の恐ろしさや、自転車の正しい乗り方や新しい交通ルールが分かった	⇒	生活習慣は家庭の安定度が高く、比較的良好と思われるが、学年が上がるにつれて乱れ気味になる。 各安全・防災教室が生徒に正しい知識を植え付けるのに役だった。 3年生を中心に自らの生活習慣を見つめ直させ、規則正しい生活を確立させる。 地域の自主防災組織とも今後、連絡を取り合っていく必要がある	⇒	少人数であるが故の部活動のメリット・デメリットは理解できるが、兼務教員などもあり、活動日が限られていたり活動内容に改善すべき点も見られる。 小規模校ならではのメリッ
4	独自の取組	伝統文化教育 少人数を活かした教育	各種伝統文化体験・「心からすまいるおもてなし集会」 体育祭などの縦割り集団の活用・少人数クラスの編成(特に2年生)	保護者評価アンケート・おもてなし集会時のアンケート 保護者評価アンケート	地域の伝統文化の活用が出来ているは86%で昨年度より8ポイント増加 少人数を活かした取り組みは80%で昨年度より7ポイント増加	⇒	伝統文化教育は本校の特色ある取り組みとして定着しつつあるし、継続させていくべきである。 少人数を活かした教育も、概ね支持されているが、反面部活動等の種類の少なさに対する不満の声もしばしば耳にする。 ホームページなどで取り組みをできる限りお知らせ・紹介すると共に、アンケート実施時に説明文を添えるなど、学校の様子や取り組みがより分かりやすいものにしていく。 小規模校のデメリットは受け止めつつ、メリットを大いに活用、アピールしていく。	⇒	少人数ならではのチーム烏丸といった一体感が、体育祭や様々な活動で見られる。 伝統文化教育も地域の特色を活かした教育として今後も継続させていくべきだ。 費用面の課題があるので、今後公費と保護者負担とのバランスも検討していく必要がある。 地域のふれあいまつりなどで、広く着物のリユースなどを呼びかけたり、PTA特別会計の中から一定額補助するという事も検討していきたい。